

全体会午後の部 I

司会者 それでは定刻がきたので着席してください。ただ今より、全体会午後の部 I を行いたいと思います。午後の部 I の司会を担当させていただきます、板野中学校 2 年の o、板野中学校 2 年の p です。よろしくお祈いします。午後の部は、前半の I と後半の II の 2 部構成になっています。最初に意見発表を 3 本していただき、その内容を通してみんなで人権について語り合い、みんなで本当の笑顔を輝かせていきたいと思ひますので、みなさん、どうぞ協力よろしくお祈いします。

まずは前半 1 本目の意見発表です。よろしくお祈いします。



「前を向いて」

大麻中学校

「やっばし ああ やっばしと」

この詩の一部に私は胸が痛くなった。丸岡忠雄さんの「高州ーわたしのふるさと」という詩には、ひどい差別の内容が綴られている。私の住んでいる地域も差別を受けていた場所なので、私は母に聞いてみた。

「ほんまに就職差別とか結婚差別ってあるん？」すると母は、昔あったことを話してくれた。「あったよ。お母さん昔、洋服屋さんで働きたかったんよ。そんでな、それを仲がよかった先生に相談したんやけど、やめとけって言われたんよ。今頃知ったんやけど、その洋服屋さんな、被差別部落の場所に住んどる人は雇わんかったらしい。」私は言葉を失

った。本当にあるんだという驚きと悲しみで苦しくなった。丸岡さんの詩に「やっばし」と書いてあるように、就職差別だとわかっていても、どうすることもできず差別されていても我慢するほかなかったのかもしれない。そう考えると悲しくてさみしくて、むなしい気持ちになった。



私は丸岡さんのように差別に立ち向かいたいと思っている。育友会や中学生集会に参加して、人権学習を重ねるたびに、なぜ差別を受けなければならないのかという憤りと、差別を受ける根拠がないことがはっきりしてくる。以前は部落差別の話聞くのが好きではなく、人権学習も苦手だった。そんな私を支えてくれ、差別に立ち向かおうと思わせてくれたのは、家族・友達・先生・地域の人・いろいろな交流集会で出会えた人など、まわりの人のおかげである。

だから、私はこれからも人権問題について関わっていききたい。もっともっと前向きに向き合っていきたいと思っている。正しい知識を身につけて、自信をもって語れる人になりたい。これから悲しいことや辛いことがあるかもしれないが、頑張っていこうと思う。私を支えてくれているたくさんの人たちとともに。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、前半 2 本目の意見発表です。板野中学校 3 年水口莉那さん「意外と身近な部落差別」です。よろしくお祈いします。

「意外と身近な部落差別」

板野中学校 3年 水口 莉那

皆さんは、部落差別を知っていますか。私が部落差別について少し理解したのは、実はつい最近になってからのことです。私が初めてこの差別について知ったのは、小学校5・6年生の頃、「山の粥」という資料を使って勉強したときです。しかし、あまりピンとこなくて、私はずっと何だろうという感じでした。

私は、よく理解できないまま中学生になりました。ここで、私には大きな出会いがありました。それは、「ふれあい活動」という学校の人権活動です。最初は、友人から誘われたというだけで、はっきり言って人権なんて全く興味なんてありませんでした。しかし、このふれあい活動は、私の人権についての意識を変える大きな出来事の1つとなりました。そして参加するようになって、人権について興味を持ち出しました。

しばらくして、私にとってもう1つの大きな出会いがありました。それは、地域の中高生たちによる人権活動「真友会」でした。この真友会に加わったことも、私の人権についての意識を変える大きな出来事の1つとなりました。とくにこの真友会の活動で、私は部落差別にさらに興味をもちます。そして、内容を少し理解できるようになります。しかし、今でも差別が残っているとと言われても、「本当にそうなのか？」と思っていました。

そんな私に、またまた転機がきます。私がある日、知人の家に出かけることを祖母に言ったとき、いきなり祖母が、「あんな、今まで言わなかったけどな、あっちの方には行かれんでよ。」と言ったのです。頭をバットでなぐられたような感じにおそわれました。まさか私の祖母が差別をするなんて思ってもいませんでした。私は、すごくショックを受けました。私の祖母は、優しくとてもいい人

です。そんな祖母のことが私は大好きでした。だから余計にショックを受け、とても悲しかったです。何日後かに私は、理解してもらおうと祖母に話しても、全く聞く耳を持ってくれない、私は自分の部屋で声を押し殺して泣くしかありませんでした。私はこの日、「やっぱり差別は許したらあかん。まだ、現実にはこんなに根強く残っとんや。今までの私みたいに、部落差別のことをちゃんと理解できていない人を変えなあかん。ちゃんと部落差別のことについて勉強せな。」と思いました。



それから私は、今まで以上にふれあい活動と真友会、そしてもちろん、人権の授業にも真剣に取り組むようになりました。部落差別は遠い昔のようでも、まだまだ世の中においてとても根強く残っているのです。私は、そのことが祖母とのことで初めて気がつきました。私みたいな経験がなくても、まだ部落差別は根強く残っていることを理解できる人が増えたらうれしいです。そして、部落差別によって辛く悲しい思いをする人を、私たちの活動によって減らしていかなければならないと思うのです。だから、私はまず、部落差別についてもっとたくさん知っていこうと思います。そして、次は、祖母にきちんと理解してもらいたいです。そうやってしていくことによって、部落差別はなくしていけると思うのです。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、前半3本目の意見発表です。藍住中学校3年高田智華さん

「部落差別について考えたこと」です。よろしく願います。

「部落差別について考えたこと」

藍住中学校 3年 高田 智華

私は中学生になって、たくさん人権学習をしてきました。学級や学年全体での人権学習を通して多くのことを学んできましたが、学年が上がるにつれ、部落差別についての学習が増えていきました。人権学習で見る部落差別のビデオは、胸が痛む内容のものがたくさんありました。実際に差別を受けた人の話を聞いていると、「こんなにも苦しんでいる人がいるのに、なぜ差別は続くのだろう。」と疑問に思えました。そして、差別することに怒りを覚えるようになりました。

ある時、私は、学校の人権学習で勉強したことについて、母に話してみることにしました。母にどんな反応をされるだろうかと、少し不安になりましたが、母は、私の話を真剣に聞いてくれました。

私は、部落差別について思っていることを素直な気持ちで、ゆっくり話しました。私が話し終わると、母は自分の意見を言ってくれました。

母の真剣な話を聞き、私は「これが語り合うことなんだな。」と思いました。私たちの学年は、中学1年生の時から、お互いに自分自身のことや自分の思いを語り、そして人の話を聴く、「語り合いの学習」を続けてきました。森口先生は、いつも自分の言葉で語っていくことの大切さを教えてください。「語ることができた時の喜びはとても大きい。」「語り合うことで連帯感や絆が生まれる。」と、よくおっしゃいます。私は母と語り合うことで、母の気持ちがよくわかったし、今まで以上に「親子の絆」が強くなった気がしました。また、自分も語り合いができるようになったんだなと思えて、少しうれしくなりました。

その後、母は、自分が体験したことについて話してくれました。母には東京に友達がいま。その人と一緒にいるとき、部落のことについて話す機会があったそうです。母の話にその友達は、「何それ、そんなこと知らない。」と言ったそうです。母はとても驚いたそうです。私もその話をきいて驚きました。以前、先生が、人権学習の中で、「東京の人から『部落差別は西日本の問題』と言われた。」とおっしゃったことを思い出し、母の話とつながりました。

私でさえ中学校で習って知っているのに、大人になっても知らない人がたくさんいる。部落問題について学ばなかったら、もし差別が起きたときに、その人たちはどう対処するのだろうかと思いました。誤った考えを信じ込んでしまったり、偏見をもって差別に加わってしまったりするかもしれません。



差別については、まず知ることが大切です。私たちは、部落差別について勉強したので、知っています。でも、学習を進めていくうちに、私は部落差別という名の差別があることを知っているだけで、それを他人事と考えているのではないかと思うようになってきました。自分には関係のないことだと思い込んでしまい、他人事のようにこの問題に接しているから、ビデオを見て胸が痛んでも、それが直接自分に関係することとしてとらえられないのではないかと思いました。

そんな私の考えを変えるきっかけとなったのが、結婚差別と闘う中倉宏美さんの生き方に学ぶ人権学習です。宏美さんは部落差別に

立ち向かい、好きな人と結婚するという夢を叶えました。宏美さんは部落の人ではないのに、部落差別によって苦しみました。なぜ好きな人が部落出身というだけで、苦しまなければならないんだと思いました。

私は宏美さんのことを学び、部落差別は決して他人事ではないと心から思うようになりました。結婚の問題は、直接自分に関係する問題です。私は、部落差別を他人事と考えていたそれまでの自分が、はずかしくなりました。私も差別している人と同じではないか、そう思いました。

私は差別をなくさなければいけないと思うよりも、まず自分が変わらなければいけないと思う気持ちが強くなりました。私は、これから先、様々な差別にたくさん出会うかもしれません。そんなとき、自分の考えをしっかりと、意見を堂々と言えるようにしたいです。そのために、学校での語り合いの学習や、家族との語り合いをしっかりとしていきたいと思っています。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。それではこれから、意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者のみなさんの思いを語っていただければと思います。またマイク係として、板野中学校3年 q さん、板野中学校3年の r さんの2人がフロアをまわります。なお記録の関係上、発表者は学校名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願いします。

屋島中学校 3年 s 僕はこの集会を通じて部落差別という言葉をはじめで知りました。屋島中学校では、ハンセン病の差別や外国人に対する差別などいろいろなことを人権の授業で学習してきましたが、部落差別という言葉は学習してきませんでした。なのでこのことをみんなに伝えて、正しい知識をもってこ

の差別をなくしていかなければならないと思いました。



大麻中学校 3年 e さっきも言ってくれたように部落差別について、ここにいる人でも知らない人がいると思うんです。せっかくこういう場所に来たんだから、学べることは学んで帰ってほしいし、みんなに伝えてほしいと思う。僕の考えとしては、さっき言ってくれたように被差別部落の友達がいたとしても、やっぱり今までと変わらずに支えていけるようなそんな友達関係をつくってほしいと思います。ありがとうございます。

高浜中学校 1年 t 福井県でも部落差別が昔あったことを人権の勉強で聞いたことがあって、そのこともふまえて、部落差別のことをさらになくさなければいけないなと思いました。

藍住中学校 3年 u 少し話題からはずれるんですけど、昔にこんな話を聞いたんですよ。アメリカで行われたある実験で、牢の中における囚人とそれを監視する人とで役割を20人ぐらいで分けて、それを1~2週間くらいかけて、しばらく経過をみるっていう実験をしたらしいんですよ。そしたら、最初はみんな普通に話したりしてたんだけど、1週間経ったあたりから囚人を監視する役を与えられた人が、囚人になった役の人たちをおとしめたりするような発言とかをし始めるんですよ。それがだんだんエスカレートしてきて暴言になったり、ほんまに監視する人とか囚人

でもないのに、そういう関係になったというか、多分本人たちは無意識でもそういうふうになってしまったんですよ。それで、ほんまみんな全員大人の人なのに、2週間、1か月も経ってないのに、そんな長期の実験ではないけど囚人の方から「もうやめたい。実験やめたい。」っていう、「ほんまに死にそう。」っていうくらい辛い声が挙がって。この実験のことを聞いて、こんな短期間で人って変われるもんなんやなって思ったし、この実験の話聞いて、部落についても昔の人が身分制度で、こういう仕事の人はこちらだっていうふうに分けられたせいで、それが今も残って差別になっているわけやし、そういうこと考えたら、ほんまに一人ひとりの意識を変えるっていうより元に戻すっていう方が正しいのかなあと思いました。身分を分ける前のみんなが一緒だった頃の人の感覚に戻していくのが正しいんじゃないのかなあと思います。

板野中学校 3年 v 私も自分の中の差別意識、差別をしてしまう、ちょっとのことでも区別みたいなんをつけてしまう意識を先になくしてしまわなければならないと、今聞いたuさんの話や高田さん作文を聞いて確信しました。



上板中学校 3年 w みんなの作文とか、絶対みんなも部落差別とかはなくていかなあかんて思っとると思うし。もちろん自分も思っとるけど、それはそれでなくしたところで、その部落差別があったということを次の世代の子がもし知らなかったら、それはそれで問

題やけん。そうやって部落差別がなくなっただとしても、だんだん部落差別があったという意識が薄れていったら、それも大変なことだから、そうやっていくことで、部落差別は西日本の問題とかって、関東とかそこ辺りの人に言われるかもしれんけん。そういうことがあったっていうことは、部落差別がなくなっても忘れたらいけないなと思いました。

板野中学校 3年 h さっきはいろいろあって、ミスしてしまったんですけど申し訳ないです。高田さんの作文で、「東京の人から部落差別は西日本の問題といわれた。」というワードで、私が実はちょっとそれで実体験というか、似た経験みたいなのがあって。そういうふうに言われた訳じゃあないんですけど、ネットの友達に、新潟辺りの子がおるのかな。その子と結構言えるぐらいには仲がいいんやけど。人権の話みたいになってきたときに部落差別の話をしたら、「それ何なん？」って言われちゃって。その時は、知ってそんなに経ってないから、「うわ〜何て言おう。」って。結局「地域で差別されるって感じかなあ。詳しくは検索してみて。」みたいな感じで終わっちゃったんですけど。ほなけん、これみて私の経験を思い出しました。それだけです。

城ノ内中学校 3年 x こういう話を聞いて、まずなんで部落差別って起こるんやろうって考えてみたときに、じゃあ自分たちが、まあ例えば僕が、〇〇町出身なんですけど、「〇〇町出身です。」って言って、差別されたらたしてどんな気持ちなんだろう。それで排除されたらどんな気持ちだろうと思ったら、東京の人で部落差別は西日本の問題って言った人が、じゃあもし、「東京のどこそこ区出身です。」って言っただけで差別されたら、たしてその人はどう思うだろうか。こんなことを一人ひとりが他人事、どっか遠く

の方で起こってる問題じゃあなくて、はたして自分の身に起こったらどういう気持ちなんだろうってことを考えるってことをやったら、部落差別っていうのは、なくなっていくっていうか、ずっと人の心の中にとどまって同じ過ちを繰り返さないでいこうっていう気持ちわいていくんじゃないかと思いません。



屋島中学校 3年 y さっき僕の学校の子が言ったように、僕の学校では部落差別について学習することがありませんでした。なので、知らない人のためにも、ここで本音で言い合えて僕はこう思う、私はこう思うって言っても、学校で自分がどれだけ行動力とか実践力をもって広められるかが、多分それはあるんだと思います。僕は家とか学校で、この講演会とか交流会で「こういうことを学んだよ。」みたいなことを話そうかなと思います。みんなもやってほしいなと思います。

大麻中学校 3年 j 高田さんの作文にあったように、「部落差別」という名前を知っているだけで、他人事のように考えているのではないかとあったのですが、私も今まで勉強してきたけど、そこまで深く考えたことがなかったので、この学習を通して、自分でも深く考えていけるようにしたいと思いました。

内浦中学校 1年 l 私の内浦中学校では、部落差別について事前に学習したんですけど、やっぱり自分の身近な家族とか友達とかおじいちゃん、おばあちゃんは部落差別をさ

れていたということがなかったから、あんまり身近にあるものって思っていませんでしたし、今日本にあまりない、そういう差別が起こってないって思ってたんですけど、この作文とかを聞いて、やっぱり3人の人全員の身近に起こっているということを聞いたら、けっこう多いんだなと思ったので、やっぱり身近にあるんだなということを心に置いておきたいなと思いました。

名和中学校 2年 m 高田さんの作文で、「大人になっても知らない人がたくさんいる」と書いてあって、もし知らない人とかに出くわしたりとかしたら、ちゃんと部落差別は、こういうのだから説明できるようにしたいと思いました。

板野中学校 3年 r さっき吉成先生から問題もらったんですけど、城ノ内中学校の方が、「その人のことを自分のこととしてとらえたら差別はなくなるっていう、すごい簡単なことなのに、なんで部落差別がなくならんのだろう。」って訊かれて、私は、やっぱりみんなが言ってるように、他人事って、自分のことじゃないって自分は関係ないって思ってしまうから、差別がなくならんのだと思います。みなさんは、どう思いますか。

内浦中学校 1年 z 私もさっきあった同じ友達のことについてなんですけど、私も事前学習で福井県の自分の住んでる地域に部落差別を受けていた地区がすごく身近にあることを知ってすごく驚いたし、あと私も中学1年生になって初めてその言葉を知ったので驚きました。やっぱり部落差別っていうのは昔からあるので、私の祖母に聞いてみても、そのことについても学んだって言ってたし、私たちにできることでもちゃんと学んでいかないといけないんだなとすごくわかりました。

板野中学校 3年 a a さっきのrの質問に答えたら、うちの周りだけなんかもしれんけど、うちの周りの友達っていうんは、部落が板野町にあるかどうかもわからんし、部落がどこにあるかっていうか、身近にあるかどうかもわからんけん。身近な問題として考えづらいというか、どっちかというと、昔の問題って考えがちな友達という人が多い。やっぱり勉強するとき、昔のことを学ぶのも大事やけど、今あるし、今の実態というか、見えにくいけどほんまにあつて、気づかなあかんっていうんを、ちゃんとみんなに言わなあかんというか、そういう感じがします。

板野中学校 3年 a b さっき、a aが言っていたみたいに自分も、自分が住んでいる板野に部落があるのかもわからないし、rが質問してくれたようにうまくは答えられないけど、昔と今はつながってるし、今も部落差別があるから、そういうのも自分で学んでいって、なくしていけたらなって思います。



屋島中学校 3年 a c 部落差別って言葉を今日初めて聞いて、部落差別って何だろうなと思ったままこの会場に来て、いろいろ話を聞いたりして、でも部落差別は香川県では、特に聞いたことがなくて、話を聞いてもわからないままで差別があつて、その差別をどうやってなくすかってことを考えたときに、その差別によって結婚しづらくなるとかはわかったけど、その身近なことで、例えばやっぱりこの地域の人だからみたいな感じで言われるとか、そんなのがあれば教えてください。

藍住中学校 3年 a d rちゃんがさっき問題提起してくれたんですけど、私が一番思ったのは、部落差別がまだ続いているのは大人も関係あるのかと思います。まだ続いているのは、大人の人が子どもに「行かれん。」とか、そういうのを言うから子どもにもずっと伝わって、その子どもが大人になっても、また自分の子どもに伝えていって、こうなっていくんじゃないかと思いました。でも、自分が部落出身って言われなわからんのに、そういうことを聞いて、“差別されてる部落の人”だから嫌になったりするのはいじめだと思つたし、大人の人たちも頭かたいけん、あんまり聞いてくれん人もおるかもしれんけど、やっぱり伝えていかなきゃあいけないし、自分自身もちゃんと伝えていきたいと思つました。

城ノ内中学校 3年 x 自分が問題の発端なので発言をしておきたいと思つています。部落差別が今まだ起きているっていうんは学校では習うと思うんですけど、あるっていうことしか習わん学校がほとんどだと思うんですよ。じゃあどこにあるのとか、どれくらいあるのまでは学ばないところが大多数だと思うんですけど。やっぱり自分たちが友達に伝えていだけじゃあまだ弱いところがあると思うんですよ。やっぱりしっかり学校の教育の一環として、部落差別は今もどんだけある、どこにある、今もそういう話があるっていうんを教育で学校で教えることがまずみんなの意識を高める一つの方法になるんじゃないかなと思うから、やっぱり子どもだけの力じゃない、子どもだけじゃあ解決できないところもしっかり社会全体で考えていく必要があるんじゃないかなと思つています。

内浦中学校 1年 a e 部落差別について授業であんまり勉強しなかつたんですけど、作

文などを聞くかぎり、してはいけないことだとわかったし、部落差別をする人がいなくなるのが一番いいので、そのような部落差別をする人がいなくなったらいいなと思いました。

内浦中学校 1年 a f 私もこの作文などを聞いて、差別をしたりすることはいけないことだと思うので、こういう場で部落差別とかそういうことについて知識を深めていって、差別している人に「こういうことはいけない」ということを理解してもらえるように私たちも努力していくのがいいのかなと思いました。

内浦中学校 1年 z さっき城ノ内中学校の人が言ったんですけど、学校ではあんまり深くは部落差別について学ばないかもしれないけど、もっと自分たちで深く知っていかないといけないし、でもその一方でどれくらいあるのかを知ったところで、自分たちが偏見をもってしまうかもしれないので、やっぱりそういうときには、自分の力で偏見をもたないという心を育てることも大事だと思います。

徳島北高校 1年 i さっきから、みんなの疑問として部落がどこにあるかわからんとか、そういう話が出るとるけん、ちょっと気になったから言いたいんですけど。学校で教えるときに、例えばどこにあるっていうんを具体的に言ってしまったら、それから逆に差別してしまうことが生まれるかもしれないですか。それがあから、多分教えれんっていうか、学校以外でもインターネットとかいろいろ深い問題であるんだけど、場所を知るっていうんは、あんまりせんほうがよかったですりするときもあると思うんです。だから、部落差別があるのを解決しようと思って、そういうとこまで踏み入れてしまいたい気持ち

もすごくわかるんだけど、ちょっと教えれんっていう部分もあるっていうことを知っててもらえたらなと思います。なんかモヤモヤしたらごめんな。

板野中学校 3年 h ずっと言いたいなあと思ってたんですけど、城ノ内中学校の方が言われたことなんですけど。さっき i さんが言うたこと、それを私、自分の中で思いよって、ほれ言うたら、そういうのを利用して何か、みんながそれで知っちゃったら場所を特定できてしまったら、変に意識しちゃうっていうか、やっぱり人間ってそういうところがあるんじゃないかなって思うんですよ。だから、多分先生たちは、そのことはあえて言わないだと思えます。だけど、さっきその人が言よったように、もうちょっと部落差別の実態っていうんは、もっと深く掘り下げて勉強をするべきだと私は思います。だから、もうちょっと先生方何か対策練ってください。中学生の力だけでは、どうにもならないこともあると思うんで。



城ノ内中学校 3年 x 毎度すみません。みなさん訂正ありがとうございます。確かに場所まで明かしてしまうといろいろな問題が発生してくるので、ちょっと考えなしに言ってしまったかなと大変反省しております。そこまで詳しく掘り下げるのはよくないとわかったんですけど、重点的にやるのは実際、作文で言ってもらった体験談を学習の中に取り入れていく、名前出してとかまではせんていいから、そういうことが実際にあるんだよって

いうことをわかったらいいと思います。

城ノ内中学校 3年 a g となりの人に付け加えてというか、まとまらないんですけど聞いてください。私の地元には学習会っていう所があって、真友会と一緒に感じだと思うんですけど、人権の勉強をする所があります。そこで部落差別の勉強とかもするんですけど、部落は場所とかいうんじゃないくて、最初に場所を決めた人はおると思うけど、どんどん「あそこが部落よ。」って広げていって、いろんな人の心の中にあるんじゃないかっていうのを学習会では話しています。それをなくしていくために、変わるとか元に戻すって話も出たんですけど、人を変えるとか人を元に戻すって多分すごい難しいんですけど、自分が元に戻るとか変わるところを見せれたら、それは相手にも影響して、一緒に変わってくれたり、一緒に戻ってくれたりすると思うんですよ。それで、学校でもっと教育してほしいっていうのもあったんですけど、私も場所を言うっていうんは、ちょっと「ん〜」って感じで、ここに集まってくれている子は、多分部落の話をして理解してくれると思うんですけど、さっきも作文にあったように、おばあちゃんが理解してくれんとかそういう人も学校にはいると思うんですよ。ここじゃないところにはいっぱいいると思うので、そういう人にも部落を理解してもらえないために、ここ以外の場所でも理解してもらえない人に話せる機会をつくるってことだったら、教育としてするのはいいかなと思いました。以上です。

板野中学校 3年 a a 私も真友会で話すんですけど、かなり難しいよな。めっちゃ説明しにくいんやけど。その地域を差別されるっていうか、その地域に住んでるだけで差別されたり、その地域から引っ越ししても前に住んでただけで差別されたりとか、自分のおじ

いちゃんおばあちゃんがそこに暮らしとって、自分はそこに暮らしたこともないし、行ったこともないってことでも差別されるとかっていうんで、あほみたいなことです。

板野中学校 3年 v さっき、a aが言ったことに付け加えてっていうか、なんかその地域に住んでる人だけじゃなくって、その地域の家とか役場が全然直してくれんかったりするらしくて、そういう写真を見せてもらったりするんですけど、真友会とかで。けっこうボロボロで、ひどかったです。

屋島中学校 3年 k 屋島中のみんなが何回も言ってるんですけど、部落差別を屋島中では学習してなくてわからなかったんですけど、今日の交流集会で部落差別があるっていう事実を知れただけでも、この集会に来てよかったと思います。



岸本 自分の後輩たちが部落差別について話してくれてたので、付け足しっていうか。屋島の中学校かどこかで、身近な差別があったら教えてくださいって言った子が確かおったと思うんやけど。真友会で習ったことなんやけど、20年くらい前になるんかもしれんけど、香川と徳島の県境で結婚差別があったっていうのを聞いたことがあるんやけど。詳しくは話せんかもしれんけど、部落出身の男の人が部落外の女の人とつきあいよるっていうのを親御さんが知って、誘拐罪っていうんで訴えたっていう事件があったりとか、香川徳島っていったら、自分も徳島出身やし、香川

の子もおるし、県外の子もおるだろけど、実は案外身近な所で、たかだか部落民宣言をせんかった、自分はおそこに住んどるって言わんかっただけで、誘拐罪、詐欺罪みたいなんで訴えられたりするっていう差別があるっていうんは、知つといてもらいたいなって手を挙げました。

屋島中学校 3年 ah 今日の交流会を通して、部落差別について学ぶことができました。屋島中では、ハンセン病などについて学んだんですけど、まだ屋島周辺の人々は部落差別について知らないことが多いと思うので、今日の経験を生かして、屋島周辺の人々に発信していければいいなと思いました。

中川 ほんまに関係ないって思ってる人が話を聞いただけで身近に感じるってことは難しいことだと思うのよね。それは大人からしても一緒やと思うんですよね。だから、問題提起とか質問として、学校でみんなに人権を教える先生方に聞きたいんですけど、どういう考え方をもってみんなに人権を教えよんかなって聞きたいので教えていただいてもよろしいでしょうか。



屋島中学校 教員 屋島中学校の生徒が部落差別は知らない知らないと言って、それは私の責任ということで、申し訳ありません。屋島中学校では、当然社会の歴史の中で身分制の授業をして、3年生では、市民平等とか全国水平社についてやります。人権学習については、1年生で障がい者差別、2年生でハンセ

ン病の回復者についての差別について、3年生の2学期で部落差別の結婚差別について公民の平等権のところをやります。中倉さんのDVDとか使わせていただいて、結婚差別について学習するんですが、今僕は2年生なので、身分制の授業をやったのですが、どういう思いで授業をやっているかということ、昨年8月に鳴門である会でも発言させていただいたんですが、僕自身、その時は職業差別の話が出ていまして、子どもの頃にうちの家は養豚業をしていまして、豚を飼っていたんですが。それについてすごく父親のことは尊敬してたんですけど、豚を飼っているということで父親がちょっと差別を受けるというか、ばかにされているということを感じていて、父親の仕事を手伝うっていうのが嫌だったんですね。各ホテルの方に残飯を取りに行くんですね、豚のえさの。当然お金を払って買ってくるんですが、それを手伝うのがすごく嫌で、もらっているって思われていて、いらぬものもらっている。それを友達にも見られたくないし、自分の家が養豚業をしてるっていうのを友達にもよく言わない、農業してる。当然お米とかも作っていたのでうそではないんですよ。ある時、授業中にある先生が真面目にしてない子らに対して、「勉強できんやつは、豚飼いにでもなったらええんや。」みたいなことを言ったんですよ。これ俺のことを言よるんやなあ先生はね。別に仲が悪いとかじゃあなかったけど。すごいそれはくやしくて、自分は恥ずかしくてみんなの前ではよく言わなかったんやけど、本当はやっぱり「先生何言よんな。みんな豚食べよんやろ。それ作ってるのはうちの親父なんや。朝早くから残飯取りに行つて。一生懸命、ほんと休みがないんですよ。土日も動物やから全然休みがなくて、家族旅行とかも行ったことがなくて、だから俺は養豚業はできんなと思って。土日が休みがあつて、家族で旅行したりとか、そういう家つてうらやましいなあつて

思ってたんですけど。絶対その先生、許せれんなと思って。その先生校長先生になったんやけど、もう全然尊敬できなくて。ずっと心の中で「くっそー。こいつは。」と思ってて。こんな先生だけには俺ならんところって思ってたんですけど。

この前の2年生の身分制の授業の時に子どもらに話をしたんですが、差別はみんなの問題なんやと。江戸時代の幕府がつくったんじゃないやなくて、実はその当時の民衆の心の中に差別意識があったから、それを利用してると。

実は実際私は、結婚するときに差別されました。うちのおふくろが特定の政党をすごい支持してですねえ。宣伝カーに乗ったりとかしてて。まあ、おふくろはおふくろなりに、社会を少しでもよくしようと思ってた人なので、そういうことをしてたんですが、いざ僕が結婚するときに、嫁さんがですねえ、結構年齢がいったから親から見合いしろと勧められて、「実は私はつきあってる人がおるんや。」って僕の話になったときに、どうも向こうの両親が近所に聞き合わせをしたらしくて。その家にうちの娘をやるっていうんはよくないみたいなことを聞いたらしいんですよ。「実は、両親に反対された。あんたと付き合うな。会うなと言われたんや。」と嫁さんが言って。俺はすごいつらくて、差別する人は何でもいいんですよ。理由はね。江戸時代の身分制に基づくものであっても、おふくろが特定の政党を支持するような家であろうが、何でもいいわけですよ。差別する理由っていうのはね。すごいつらくて、人間不信になりそうだったんやけど。嫁さんが親の言うことをきいて、そのまま「あんたとはつきあえん。親がそんなふうと言よる。」と言ったら、俺も、もうちょっとぐれてあれだったかもしれないけど。会ってもらって話をしてなんとかね。会ってもないのに結婚をすごく反対されて。まず会ってもらおうということで。説得して、おふくろにも会ってもらったし、僕も一緒に

会ってもらったんですけど。会って話し、何回か食事したりしたら、見てわかるように、すばらしい青年じゃあないかということになって、「結婚しろ。」みたいな感じになって認めてくれて。僕はもう少し独身でおりたかったんですけど、早く結婚せないかんみたいに言われて、結婚して教師やってるんですが。

僕もいろいろな生徒を見てきてるんですが、ほんとに理由がないことで、部落の子どもたちであろうが、在日外国人の子どもたちだろうが、それは一緒なんですね。親とか僕らも教師としてこの子らがやっぱり幸せになってほしいな、この子らが幸せになる世の中をつくるために教育をしたいなあと思っています。



大山中学校 教員 隣にいる生徒と2人で今回は参加ということで。発表のチャンスがあったらとさんざんけしかけたので、先生たちによって振られたら、黙っておいたらいいかなあと思って手を挙げてみました。

私は、今、人権学習ってよくいうんですが、私たちが学習を始めた頃は同和問題学習でした。やっぱりみなさんと同じ中学生くらいのときに、その頃はうら若き乙女だったのですが、一緒に同じ教室で学習している友達、一緒に部活をしている友達が、自分がいつか差別されるかもしれないというような不安を抱えているというようなことを、学校生活の中でぼつぼつ話す機会がありました。私はその子のことがすごく好きだったし、すごい人だなあと思っていたので、なんで同じ中学生がそんなことを不安に思いながら生活しなけれ

ばならないんだろうとすごく憤りを感じました。その怒りとか腹立ちが多分教員になっても人権問題とか同和問題とかを考えていくときの原点かなあというふうに思っています。

ですから、学習会とか授業では、私は今、学級をもっていないので子どもたちにあんまりこの問題を語る場面っていうのがないんだけど、話をするときには、やっぱりそのときの理不尽な怒りとかそういうものはわかってほしい。いわれのない差別なんだよということは絶対わかってほしいし、じゃあそのいわれのない差別を耳にしたり、もし出会ってほしくないけど、その差別に出会うというようなことがあったときには、おかしいとはねつけられるような力をつけてほしいなあ。間違ってるよ、変だよ、おかしいよっていう感覚をやっぱりもって、そして自分らしく生きていける、胸を張って生きていけるっていうような人として仲間と一緒にがんばっていける、そういう人になってほしいという思いでやってきました。これからもそういう気持ちでがんばっていきたいなと思っているし、中学生の若いみなさんにもやっぱりいい感覚をもって、そして、おかしいなというときには言える、そして辛いときには寄り添って一緒に考えていける、そういう人になってほしいなっていう思いをずっともっています。

上板中学校 教員 「今どんなことを思ってお前は教育しよんな。」っていうふうなけんかを売られたので買います。3つ言わせてください。

まず1つ目は、今、他の先生も言われたように、差別に出会ったとき、出会わないのが一番なんですけど、出会ってしまうときがあるんですよね。社会で暮らしているときには。出会ってしまったときにまずはそれが差別じゃってことに気づける人間になってほしいということ。あー、これ差別なんじゃあって。上から力を加えられると、何か人間、さっき

もあの辺りで上から立場がどうのこうのとか、役割でっていうのもあると思うんですけど。力を加えられるとそれがあたりまえになってしまって、「僕や差別されてもいい人間なんじゃあ。僕はひかなあかんのじゃ。僕はもうええんじゃあ。」っていうことがないように、「これ、おかしいことやけんおかしいって言うてええ。」っていうことがわかるっていうことがまず1つ。わかった上で、「おー、そうきたか。おー、差別するんだったらしてみい。」みたいな「おー、これ差別やなあ。」って受け取れるようにね。それに、それが来たときにびっくりせずに受け止めれる予防注射みたいなもんですよね。インフルエンザの。かかったときに、もし、どういう方法で立ち向かったらいいかっていうのがわからないですよね。差別を自分がうけたときに説明できなかつたとかいう、いろいろあると思うんですけど、うまく説明できなくてもそれを何とかはねのける力、言い方、闘い方そんなのをわかってたらいいのかなあ。体験を聞きたいっていうのなら、体験の中で、闘ってきた歴史っていうのもあると思うんですよ。それを聞いて「こういう闘い方があるんやなあ。」「こういう解決の仕方があるんやなあ。」っていうことがわかるっていうことが1つ。



2つ目が、部落差別もそうなんですけど、簡単に言うと、さっき a a さんも言ってたけど、うまく説明できんし、あほらしいっていう一言につきると思うんですよね。部落差別って非常に簡単な話で、差別したい人間が「あ

っ、お前部落。」って決めたらそいつ部落の人間になってしまうんですよ。差別したい人間が「あいつ部落。」って言うたら終わりですよね。「なんで僕、差別されなあかんのん？」って思ったって、「おれがお前を部落の人間って決めたいけん。」ってされたら、その人間は部落の人間になってしまうんですよ。ものすごくあほらしいと思いませんか？あほらしいですよ。だって、差別する側の勝手な論理で差別を自分が受けなあかんってありえん話なんですよ。それが知らず知らずのうちに自分の中でそういうことをやってないかっていうこと、ありませんかっていうことでもあると思うんですよ。「あいつが・・・やけん、おれは、あいつを批難してもいいんだ。」みたいになっていくことがないように。そういうあほらしいことを、ほんまあほらしいなって気づけるのが僕は、同和問題、部落差別っていうことではないかなあって思います。だって、ものすごくあほらしいじゃないですか。勝手に差別したい人間が、「お前、部落な。」「だから差別するよ。」っていうあほらしい論理がそこにある。それを正しく理解して、ものすごく乱暴に簡単に言うてるんですけど、簡単に言うとそういう形なので、「それをどうやってお前解決していくん？」「いやそれは、自分がちゃんとせなあかんよなあ。」っていう。だから、気づける知識とそれをはねのける心っていうのがあれば、いけるんかなあ。

それで今、中学生になあ、その辺りでだまって前向いとるけどなあ。ものすごく簡単に言うと、結婚って遠いでなあ？中学生でな？15歳やもんなん。遠いもん？結婚。でも、中学校の中で結婚差別もやります。そういうことに出会ったときに、まずは、頼れる友達がおること。そんなんが話せる友達がおること。そんなんも大事やなあというので、3年生だったら全体でやるでえなあ、一回はなあ。みんながどう考えとるかもやるでえなあ。そ

うというのが学校単位で学年単位でできるようになったらええんかなあって思っているの、そういうことを考えてやっています。究極的には、差別なくそう。ほんだけの気持ちです。あほらしいけん、みんな仲良くしようだ、仲間になろうだっていう気持ちを僕はもっています。



名和中学校 教員 今日は、7人の生徒を連れて集会に参加させていただきました。名和中学校で、人権の担当をしております。今年初めて人権の担当をさせていただくことになりまして、初めて私自身がこの集会に参加させていただきました。週に1回、教科についての学習と人権についての学習、仲間づくりを中心に名和中学校では学習会を行っております。特に教科については、自分の進路を切り開く学力をつけるということで勉強の時間をとっております。また、人権についての歴史などについても勉強をしています。最後、仲間づくりについては、差別に立ち向かっていける仲間としての結束を。あと意見を発表するようなグループワークだとか、意見を発表するような活動を取り入れて学習をしています。

さいわい、うちの生徒たちは、直接的な差別に出会ったことがないというふうに言っておりますが、この先に差別に、就職をするときだとか結婚をするときだとかに、差別にもし出会ったときに立ち向かっていける力をつけていくための学習会にしていくという責任感をもって関わっています。この先にまた、自分が彼女たちが就職の際だとか結婚の際に

力になっていけるようにずっと見守っていききたいなというふうに思っています。

なかなか自分自身がまだまだ勉強がたりない部分があると思うし、力不足の部分もあると思うんだけど、そういうつもりでやっていく。だから、君たちもしっかりと今日は学んで帰ったりとか意見を発表してほしいなという思いを伝えたいなという気持ちで発表させていただきました

大麻中学校 教員 「みなさんの大事な時間を、先生にマイクをまわしてしまったら、終わらなくてよ〜。」と思いながら、「ごめんよ」と思いながら、今日は大麻中学校の卒業生とか生徒が、とてもがんばっているの、私も今日がんばらなと思って、大事な時間をもらいました。

私はこの会がとても大好きです。生徒のみなさんはもちろんなんやけど、マイクを持って語ってくれた先生とか周りでみんなを守ってくれてる先生とか、すごく心があつたかくて、前向きで私も見習いたいなあと思いながら、毎年楽しみにして参加させてもらっています。今日嬉しいことがたくさんあって、言いたいことだらけなんです。

私が今日、部落差別についてとかいろいろな差別について、もっとがんばらなあかんと思ったのは、すごく私の大好きな今日のパネリストたちなんですけど、ほんまにいい子なんです。大好きな2人なんですけど、その2人が結婚したり、大好きな人ができたときに「自分たちを見てほしい」、その前に部落差別っていうのが彼らの頭の中にあつて、それを伝えるか伝えなかつたっていうことを考えなければならんっていう「今」があるんです。だから私は、もっともつとがんばらなあかんって思いました。そんな思いを2人にさせてしまっている現実・今があるので、がんばります！っていうのが1つと。もう1人、一番最初にうちの3年生が作文を読んだんです

が、それについて後で実行委員長が「支えていきたい。」って言うてくれました。すごい涙が出そうになって。この後、第Ⅱ部で彼はその思いをみなさんに発表するのでまた聞いてあげてほしいです。さっきから「部落差別って身近にないんよなあ。」って感じてた子がいたかもしれませんが、今日ここに参加してくれた人は、もう身近な問題になりました。部落差別があるんだということも知ったし、そういう思いで周りの先輩たちがたくさんしゃべってくれたので、そういう意味で、もう身近な問題として今から一緒に取り組んでいけるんかなあと思っていますので、この後、一生懸命自分の思いを語ってみてください。お願いします。



板野中学校 3年 a a 先生のいっぱい話した後なので、変なプレッシャーかかっているんですけど、さっき上板中の先生が「部落差別はあほらしいけん、なくしたらいい。」みたいなことを、おっしゃってたんですけど、うちも同じことを思っているんですけど。前までは、差別はなくせんけど、ましにはできるみたいなことを自分勝手に思つてて。それってある意味、なくすことを自分で勝手にあきらめてて、肯定していた部分があるんじゃないかなと自分で勝手に思つてて。高田さんの作文の「部落差別は西日本の問題」っていうことを前にも聞いてて、こんな広い地球の中で世界の中で、こんな小さな地域だけでやっとなるんやけん、なくせんはずないなって勝手に自分でポジティブな考え方してたんで、なくせんと思つたら、なくせるものもなくせん

ようになってしまうから、ましにしようじゃあなくて、なくそうって思っていたいなと思いました。それと、「どんな差別があるか教えてください。」と屋島中学の人が言ったので、うちが身近でないかもしれんけど、知っとる部落差別の例だったら狭山事件かなと思います。これも詳しくは20分も30分もかかるんで、簡単に言ったら部落差別による冤罪事件みたいな感じで、ある事件があって、その事件の犯人じゃない人が、あほみたいな理由で捕まってるんよ。こじつけみたいな感じで捕まってて。その人が捕まった理由が、部落の人間があやしいって理由で捕まったんで、rか、風美南先輩が説明してくれると思うんで、お願いします。



板野中学校 3年 r a aが言ってる狭山ではないんやけど、私が体験した部落差別があって。私は部活に所属していて、そのときの練習試合にいった学校がとなりに食肉センターがあって、後輩とかが「うわっ、くさー。」って。そのときは、何も知らなかったんやけど、帰りにお父さんに聞いたら、そういう施設が部落にあったと聞いて「ああ、そうなんかあ。」と、そのときは思ったんやけど、またその学校の行くときに、その後輩が「あっ、先輩。またあの臭い所に行くんですね。」みたいな感じの話になって。多分その子は、そこが部落じゃないって思ってたんだけど。知らなかったとしてもそれは部落差別だったと思うし、その時に言えなかった自分もすごい嫌なやつやなああって、後輩に注意できなかった自分も嫌なやつやなああって思った

し、そのときに聞いてた先生も何も言ってくれなかったんもすごいつらかったです。

板野中学校 3年 h rが今言ってたことなんやけど、自分が注意できんかったっていう話なんやけど。私も作文で読んだように、おばあちゃんに何も言えんかったっていう体験談があるっていうんを書いたんやけど、やっぱり理解してもらって難しいし、言うって難しいけん、そんだけ自分を責めんでいいと思うんよな。この問題自体難しいけん、確かにそれは理解してもらおうべきやと思うんやけど、個人の力ではどうしても限りがあるんやと思うんよな。説得っていうんは、ひとりは絶対無理やと思う。だから、それだけ自分を責め込むことないんじゃない？

中山中学校 教員 後悔するなあって思ってた言わせてもらいます。教員としてというところで改めてここに来て、今までやっぱりみなさんは、いろんなことを勉強してるんだなって思います。中山中学校今日6人の生徒と来ていますが、中山中の生徒もしっかりと人権の勉強をしてると思うんです。私は、学校生活の中では、授業もだし日常生活の中で、「これっておかしいよな。」っていう感覚をもってほしいなと思っています。ですが、やっぱりまだひとりも発表してないんですけど、なかなか自分の気持ちを伝えるっていうことはずかしい。多分私もそうだったし、それを一歩踏み出せるような指導をしたいし、育ててやりたいなって思っています。なのでこの後、しっかり目が合っていますのでこれから思いを伝えてくれるんじゃないかなと思っています。

大麻中学校 教員 学級の生徒と部活動の生徒が来ているので話をできたらなあと思います。

私は、教師としてという話だったんですけど

ど、以前、板野中学校に勤めているときに子どもの言葉の中から「部落はどこにある？」っていう質問に対して、そのとき一瞬みんな考えたんですけど、そのときはみんな地域の名前もわかっていただけですけども、その子の言いたかったのはそこじゃなくて、「部落っていうんは心の中に存在するんだ。」って、そのときのその生徒は言っていました。そのときに自分もはっとして、今日さっきもいっぱい話が出てたけれども、きっと今ここに来ている子も来ていない子もその部落はどこにあるんだろうっていうふうに考えたりすることもあるんですけど、その子のその言葉っていうのは自分の心の中にも響いたし、その言葉を学級の生徒に伝えていきたいなあと思って今子どもの前に立っています。

それともう1個は、去年勤めていた学校の生徒が、「部落差別って簡単になくなるんだよ、人を変えることはできんけど、全員が「せーのー」で自分が変わったらなくなるんだよ。」っていう言葉を言っていました。それも私の心を動かしていて、それも子どもたちに伝えたい。私は、できることは伝えることしかできないので、そういう子どもたちからもらった言葉を子どもたちに返していけたらなあと思って生活をしています。

それと自分の部落差別との出会いは、大学生のときにつきあって間もなかった人から「自分は部落出身なんだよ。」って言われて、すごく差別者だった親とその当時までの授業っていうのは部落差別の厳しさばかりを習ってきたので、その習ったこと不安とその両方が自分の中に聞いた瞬間にばあっと出てきました。だから、教員をしていていつも悩むのは、さっきから部落差別の厳しさを言ってくれてって言ってただけでも、しすぎるとみんなの中に不安を植えつけられないだろうかとか、どこまでどうやったらいいんだろうとか日々悩んでいます。多分たくさんの先生方がそうやって悩みながらみんなの前に立っ

ていると思います。だから何が言いたっていうわけじゃあないんだけど、そんな風に教師としてどんな気持ちで立っていますかって聞かれたら、いっぱいいっぱい悩みながら立っています。それと子どもからもらった伝えたいことを伝えること、それくらいしかできんやけど、先生がいろんな思いをしてみんなの前に立ってると思うので、一緒に歩んでもらえたらなあと思っています。



阿波西高校 2年 ai 私も真友会に所属してもちろん学校の部活のほうでも人権活動に参加させてもらってるんですけど。ひとつお願いがあります。高校生になっても人権活動は続けてほしいし、参加してほしいって多分この辺にいる高校生全員思っていると思うので。なぜかという、私の学校では、私の下に人権部の後輩はひとりもいません。実は廃部危機で、こんな良い活動なのになんで参加してくれんのだろうって思ったら、板野とか藍住とか、こっち側の方とは全然違うんですよ。だけど、参加してくれたことによって中高生集会でたくさんの仲間もつくれる。徳島県だけなんですけど、人権っていうんはすばらしいっていうことは、今日この会をとおしてすごくわかってくれたし、「差別はなくなあかん」って思いがあるんであれば、何年かしたら高校生になるので、ぜひ続けてください。ここのメンバーも待ってるんで続けてくれたらうれしいです。

藍住中学校 1年 aj さっき高田さんの作文で、部落差別は西日本の問題っていわれた

のがすごく気にかかっているんですけど、部落差別を聞いたことあるとか知っているだけでは、部落差別を受けていた人の気持ちは全然わからないと思うので、まず相手の立場に立って考えることが大切だなあと思いました。

一般 ak 今は大学院生で実習生として大麻中学校にいかせてもらっています。自分は教師という立場ではなく、学生という身分なんですけど、どちらの立場でもないんですけど、自分の思いとか考えを言いたかったのがこの場を借りて言いたいなと思いました。

今、人権っていう分野に関しては勉強中です。勉強するに至って自分の経験っていうものをみんなの話を聞きながら、先生方の話も聞きながら考えてきました。自分の経験、思い出ただけで2つあるんですけど、1つが自分大阪出身なので、ひとり暮らしとかを考えて、不動産屋とかに行くと「あそこがいいかな。」と思って「ある場所の住宅がいいです。」っていうふうに言うと、むこうの人に「そこやめといたほうがいいですよ。」って言われたんですよ。「何ですか。」って聞いたら、「そこは同和地区だから。」っていうふうな言葉を聞いて、自分は言葉が出なかったんですよ。「えっ。何でそんなこと言うん。」っていうのと残念だなという思いがありました。

それともうひとつが、これは今自分が調べてわかったことなんですけど、大阪とかは同和地区に関する差別的な言葉っていうのがネット上でアップされたりとかしてます。とても残念だなと思いました。自分が住んでいるところに誇りをもっているのに、なんでまわりの人がそんなことするんやろという疑問が出てきましたし、また、自分がその大阪出身のうちのひとりっていうふうに枠組みにはめられていることが嫌だなあとか、その差別している人らと同じ仲間とか、その場所に住んでいるんやと思ったら残念やなっ

ていうふうにみんなの話を聞きながら思いました。



やっぱり自分は今、勉強中なんで、みんなに伝えていきたいっていう思いがとてもあるんですけど、そのときに自分が出会った差別について向き合っ言葉にして、それをみんなに伝えていくってことが、そういったことをまずしていきたいと思ってます。みんなもこれからまだ出会ったこともないと思うんやけど、もしかしたら出会ってるかもしれないし、もし出会ったとしたらそのときに自分としっかり向き合っ、自分はどう思ったかとか、素直にね。そういったところにしっかりと目を向けて、自分は差別してるんとかやうかなとかそういったことに気がついてほしいっていう思いが自分にはあります。自分がまた教師になってからみんなみたいな中学生に出会ったら、自分の気持ちとか思いとか考えとかを伝えていきたいなと思いました。

司会者 まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで午後の部Ⅰの話し合いを終了し、10分間の休憩をとりたく思います。10分後には、元の席に戻ってきてください。

